

どれだけ伝わってるかな？お子さんへの伝え方②

してほしいことなどをお子さんに伝える工夫として、「ものを見せて伝える」ことをお伝えしましたが、すぐに準備できなかったり、急な場面だと、声かけでの対応が多いと思われます。今回はお子さんへの声かけのちょっとしたコツをお伝えします。

まず、お子さんが理解して行動するために、「何を」「どうするのか」具体的に伝えましょう。服が脱ぎっぱなしなら「服は洗濯機に入れて」、おもちゃを片づけるなら「人形は箱に、絵本は棚に入れてね」など。

「そこ」「あっち」のような指示語や「ちょっと」「しっかり」などの抽象的な言葉を使いがちですが、人によって加減は様々なので、実は分かりにくいです。また、「〇〇しない」の否定形も、してほしくないことは伝わっても、代わりに何をすればいいのかが伝わりません。

「ちょっと待って」ではなく「10 数える間待ってね」や、「ここでは走らない」ではなく「〇〇まで歩こう」と具体的に伝えることで、お子さんは何を求められているのか、分かりやすくなります。

お子さんによって2つや3つのことを聞いて行動できる場合もありますが、一度にたくさん聞いても、全て理解して行動に移すのは、難しいです。また、理解できたとしても、他に気がそれると忘れてしまうことがあります。

「もう、何回言えば分かるの？〇〇はダメって言ったでしょ～。□□してって前にも言ったじゃない…」と大人は丁寧に伝えているつもりですが、長すぎるとお子さんは要点がくみ取れず、分かりにくいです。

「〇〇はやめて、□□して」と、伝えたいことをまとめ、シンプルに伝えましょう。

「シンプル」かつ「具体的」を意識することで、なかなか伝わらないもどかしさや、何度も言う手間も減ると思います。お子さんに伝わる、より効果的な声かけを目指していきましょうね。

(つばさ保育士 奥田)

